

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【公開番号】特開2016-179318(P2016-179318A)

【公開日】平成28年10月13日(2016.10.13)

【年通号数】公開・登録公報2016-059

【出願番号】特願2016-139925(P2016-139925)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、遊技機の前面に設けられた発光装置を備えた遊技機に関する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

従来より、遊技盤等に複数の発光ダイオード等の発光装置を広い範囲にわたって設け、遊技状態に応じて発光態様を変化させて遊技者の視覚による興奮を高めるようにしたパチンコ遊技機が知られている(例えば、特許文献1参照)。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【特許文献1】特開2003-190410号公報

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、従来の遊技機では、遊技者の操作によって発光装置の明るさを調整できるものではなかった。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記の課題に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、遊技者の操作によって発光装置の明るさを調整可能にすることにある。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記課題を解決するため、請求項1に記載の発明は、

遊技機の前面に設けられた発光装置と、

遊技者の操作によって前記発光装置の発光量の設定を変更可能な輝度設定手段と、

前記発光装置における発光制御を行う演出制御手段と、

遊技機における異常状態を検出する異常検出手段と、を備え、

前記演出制御手段は、

前記発光装置の発光量を規定する輝度データを記憶するデータ記憶手段と、

所定の更新タイミングとなった場合に、輝度データに基づいて前記発光装置の発光制御をする発光制御手段と、

前記輝度設定手段での設定に基づいて輝度データを調整する輝度調整手段と、を備えたことを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

ここで、「演出制御手段」は、CPUとCPUが実行するプログラムとによって構成することができる。また、「発光装置の発光量の設定を変更可能な輝度設定手段」は、ハードウェアはもちろんのことプログラムによるものであってよい。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明によれば、遊技者の操作によって発光装置の明るさを調整することができるという効果がある。

【手続補正9】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技機の前面に設けられた発光装置と、

遊技者の操作によって前記発光装置の発光量の設定を変更可能な輝度設定手段と、

前記発光装置における発光制御を行う演出制御手段と、

遊技機における異常状態を検出する異常検出手段と、を備え、

前記演出制御手段は、

前記発光装置の発光量を規定する輝度データを記憶するデータ記憶手段と、
所定の更新タイミングとなった場合に、輝度データに基づいて前記発光装置の発光制御
をする発光制御手段と、

前記輝度設定手段での設定に基づいて輝度データを調整する輝度調整手段と、を備えた
ことを特徴とする遊技機。